

第3学年 学力向上のための学習指導路案（国語科）

日 時 平成31年1月18日（月）第6校時
場 所 越知小学校 3年教室
対象学級 3年 30名
指 導 者

1. 単元名 「考えの進め方をとらえて、科学読み物をしようかいしよう」 教材名 ～「ありの行列」（光村書店 3年下）～

2. 単元の目標

- 感想を書くために文章の内容を適切に引用したりまとめたりすることができる。
- 実験と考察に注意しながら各段落の内容を読み取り、論の進め方を適切にとらえることができる。
- 指示語や接続語には、文章の論理的な関係を作る働きがあることを理解することができる。

3. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○科学的な内容の本や文章に興味をもち、進んで読もうとしている。	○「問い」から「答え」に至る実験と考察を読み取り、論の進め方を捉えている。((1)イ) ○文章構成を踏まえて、内容を簡潔にまとめている。((1)エ) ○科学読み物を読んだ感想を交流し、友達と自分の捉え方に違いがあることに気づいている。((1)オ)	○指示語と接続語に着目し、文章の論理構成を捉える手がかりとしている。((1)イ)

4. 単元設定の理由

(1)学習指導要領を受けて

この単元は、学習指導要領の下記の内容を受けて設定したものである。

「C読むこと」

内容…目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。((1)イ)
目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約すること ((1)エ)

本単元では、「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか」という「問い」から「答え」に至るまでを、接続語や指示語、それぞれの段落の大事な言葉や文を見つけ、段落相互の関係に注意しながら文章を正しく読み取る力を高めることをねらいとしている。これまでの文学教材の中で、三年上「こまを楽しむ」では、「問い」と「答え」を捉えて、まとまりに気を付けて読み取る学習を行ってきた。また三年下「すがたをかえる大豆」では文章全体の組み立て方、段落ごとの書き方、文の書き方に注意しながら読み取る学習を行ってきた。本教材「ありの行列」は、「問い」「実験・観察」「研究」「答え」という文章構成になっており、これまでの説明文と違って、観察・実験を行い、仮説・推論を立て研究を深めるという論説的要素を含んだ説明文となっている。これまでとはちがう論の進め方になっているが、誰もが目にする「あり」を題材にしているため、児童にとっては身近で興味を持って取り組むことができる内容になっており、親しみながら学習できる教材である。

単元の指導にあたっては、まず初発の感想を書いた後、科学読み物について知り、友達に紹介する文章を書くという単元のゴール設定を行う。また接続語と指示語の言葉の意味や、実際に本文中で接続語や指示語がどんな使われ方をしているのかおさえておくことで、接続語や指示語を手がかりに段落ごとに書かれている内容を読み取る活動を行っていく。活動の中で、実際に多くの接続語や指示語にふれることで、接続語や指示語が正しく文章を読み取るために大きな役割を果たしていることに気づかせたい。本文を一通り読み進めた後は全体の論の進め方を考え、科学読み物が「問い」から「答え」に至るまでどんな構成で進められる

のかおさえていきたい。そしてありの行列の文章を使って紹介文を書く活動を行う。その時、本教材を活用しながら文章の内容を適切に引用したりまとめたりできるように紹介文の書き方から指導していきたい。単元の最後には、紹介文の書き方の学習を生かし、実際に科学読み物を読み、紹介文を書くようにする。友達同士で交流を行い、おもしろいところやすきなところについて考え話し合うことで、作品について理解を深め、科学読み物を読むことが楽しいという気持ちを感じることができるようしていきたい。そのために読書時間や休み時間を使って科学読み物の本の並行読書を行っていく。

(2)児童の実態

本学級の児童は、本を読むことが好きな児童が多く、読み始めるとすぐに本の世界に入り、どんな本でも楽しく読むことができる児童が多い。また、2日に一回は日記の宿題を出し、ほとんどの児童が「まず」や「次に」になどの簡単な接続語や理由をつけて書くことができている。授業の説明や振り返りにも接続語を意識して使うように指導を心がけている。

その一方でこれまでの国語科の学習における教材「こまを楽しむ」、「すがたをかえる大豆」などの説明文では、段落ごとに中心となる語句を見つけるのが難しく、自分の考えをもてない児童が数名いる。また文章の中で接続語や指示語の役割を意識して読んでいる児童も少ないのが現状である。そのため、多くの接続語や指示語にふれ、中心となる語句を抜き出す活動をすることで、文章を正しく理解しながら読む力が必要である。

(3)研究主題との関連

主体的・対話的な学びを通して、練り合いが深まる学習指導の実践』という研究主題を受け、国語科の授業でも、学習リーダーを中心に進行するよう取り組んでいる。前時の振り返りをしたあと、課題設定、解決への見通し、自力解決、集団解決、まとめ、振り返りの流れでいつも授業を行っている。授業の中では、必ずグループ学習を取り入れ、自分の考えを伝え合ったり友達の考えを聞いたりする活動を取り入れることで、自分の言葉で思いや考えを表現する力が身につくように工夫している。また全体学習では、グループで話し合ったことを考察することで、深まりのある学習になるように意識している

本時では、接続語や指示語を手がかりに第6場面から第8場面の読み取りを行う。その時、「研究したこと」、「研究結果」の二つに視点を絞り、本文中のどこに書かれているか根拠をもとに説明する活動を行いたい。本文の中には「この」や「その」などの指示語が多く出てきており、今までの学習や前の段落とつなげて考えられるようにしていきたい。そのために、キーワードを提示したり、本文を書いたワークシートをノートにはり線を引いたり矢印をつけたりする活動を行い、児童の理解につなげていきたい。

5. 指導と評価の計画 (全11時間 本時 6/11)

関：国語への関心・意欲・態度

読：読む能力

言：言語についての知識・理解・技能

次	時間	学習内容	評価			図書資料活用	
			関	読	言		評価規準 (評価方法)
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ありについて知っていることを出し合った後、「ありの行列」の読み聞かせを聞いて初発の感想を書く。 ・科学読み物について知り、友達に紹介する文を書くという学習の見通しを持つ。 	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったことや不思議に思ったことについて自分の考えをまとめている。【発言・ノート】 ・科学読み物について知り、これからの学習に興味を持っている。【発言・観察】 	並行読書 ↓
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」、「中」、「おわり」に気をつけながら本文を9つの段落に分ける。 ・接続語・指示語の語句の意味と本文中での見つけ方について知る。 		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・どこで「はじめ」、「中」、「おわり」に分かれるのか、根拠をもとに説明している。【発言・ノート】 ・段落のはじめには接続語が多いことや指示語に関係する語句はすぐ直前にあることを理解している【発言・ノート】 	

2	3	・「はじめ」と「おわり」の本文を読み、『問い』と『答え』を確認する。	○	・接続語や指示語を手がかりに『問い』と『答え』がどのように書かれているか根拠を基に説明している。 【ノート・観察】	
	4	・『中』の第2段落と第3段落を読み、『実験したこと』、『ありの様子』、『分かったこと』に分けて読み取る。	○	・接続語や指示語を手がかりに『実験したこと』、『ありの様子』、『分かったこと』がどのように書かれているか考え本文の根拠を基に説明している。 【ノート・観察】	
	5	・『中』の第4段落と第5段落を読み、『実験したこと』、『ありの様子』、『分かったこと』に分けて読み取る。	○	・接続語や指示語を手がかりに『実験したこと』、『ありの様子』、『分かったこと』がどのように書かれているか本文の根拠を基に説明している。 【ノート・観察】	
	6 本 時	・『中』の第6段落、第7段落、第8段落を読み、『研究したこと』、『研究結果』に分けて読み取る。	○	・接続語や指示語を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』がどのように書かれているか本文の根拠を基に説明している。【ノート・観察】	
	7	・『問い』から『答え』まで本文がどんな構成で進められているか考え、論の進め方について理解する。	○	・文章の構成が『問い』→『実験・観察』→『仮説』→『研究』→『研究結果』→『答え』の構成になっていることを理解している。 【ノート・観察】	
	8 ・ 9	・紹介文の書き方を知り、「ありの行列」の紹介文を書く。 ・接続語や指示語を使いながら紹介文を書く。	◎ ○	・文章構成を考えながら、内容を簡潔にまとめて、紹介文を書いている。【紹介文・観察】 ・「ありの行列」で書いた紹介文を基に接続語や指示語を使って紹介文を書いている。【紹介文・観察】	
3	10 ・ 11	・科学読み物を読み、紹介する文章を書く。 ・科学読み物を読み、感じたことについて発表し合い、交流する。	◎ ○	・文章構成を考えながら、内容を簡潔にまとめて、紹介文を書いている。【ノート・観察】 ・書いたものを発表し合い、互いの良いところを伝え合っている。 【発言・観察】	↓

6. 本時の構想

(1) 目標

- ・接続語や指示語を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』がどこに書かれているか本文の根拠を基に説明できる。

(2) 働かせたい教科の見方・考え方

- ・段落相互の関係に気をつけながら、読み取ることができる。

(3) 本時の評価規準

- ・接続語や指示語を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』がどこに書かれているか根拠を基に説明している。 【ノート・観察】

評価	評価基準	学びをみとるキーワード
A	・接続語や指示語、本文の言葉を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』を今までの学習や前の段落とつなげて説明することができる。	指示語 この研究から このえき 研究
B	・接続語や本文の言葉を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』を説明することができる。	研究結果 すると そして
C	・『研究したこと』、『研究結果』がどこに書かれているか理解している。	書かれていない

(4) 研究協議の視点

- 接続語や指示語を手がかりに段落相互の関係を意識して説明できていたか。

(5) 展開

学習過程	学習活動	○教師の働きかけ ◇評価(方法)
導入 (2分)	1. 前時の振り返りをする。 ・前時のまとめ、振り返りをペアで伝え合ひましょう。	
課題設定 (2分)	2. 本時の課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ②「研究したこと」、 「研究けっか」がどのように書かれているか本文の根きよをもとにせつ明しよう。 </div>	○学習計画から課題を設定する。
解決への見通し (3分)	3. 課題に対する解決の見通しを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ①第6段落、第8段落の本文を見て、せつ統語としじ語に○をする。 ②「研究したこと」、 「研究けっか」が書かれてい るところやその根きよと なる文に線をひいたり、 矢じるしでつないだりす る。 ③「研究したこと」、 「研究けっか」をまとめる。 まとめ方 </div>	○第5場面までは「実験・観察」だったが第6場面からは「研究」になっていることをおさえる。
・シラバス ・言語わざ ・キーワード	(一人学び(8分)・班学び(5分)・学び合い(14分)・まとめ(3分)・適応問題(2分)・振り返り(5分)) 「本文の言葉を根きよに説明する」 学習用語：「研究」、「研究結果」「せつ統語」、「しじ語」、「そこで」、「すると」、「この研究から」、「このえき」、「そして」、「そのため」	○児童の見通しを確認するためにゲー、チョキ、パーで意思表示を行い、児童同士で見合うようにする。
自力解決 (8分)	4. 接続語や指示語を手がかりに「研究したこと」、「研究結果」がどこに書かれているか本文の根きよをもとに考える。	

<p>班活動 (5分)</p>		<p>○本文を書いたワークシートをノートにはり、自由に線を引いたり、指示語を矢印でつなぐことができるようにする。</p>
<p>集団解決 ・学び合い (14分)</p> <p>・考察</p>	<p>5. ノートを使って自分の考えを班で説明する。</p> <p>6. 考えたことを伝え合う。</p> <p>○自分の意見や班で話し合ったことをもとに「研究したこと」と「研究結果」がどこに書かれているか発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィルソンが「研究したこと」ははたらきありの体の仕組みです。わけは、本文の中に研究してみましたと書いているからです。【B評価】 ・ウィルソンの研究結果は、おしりのところから、とくべつのえきを出すことが分かりましたのところでは、わけは、「すると」という接続後があるからです。【B評価】 ・ウィルソンの研究結果は、「はたらきありは、えさを見つけると、道しるべとして、地面にこのえきをつけてながら帰る」のところでは、わけはウィルソンはもともとありの行列がなぜできるのかを調べていたので、それに合う研究結果でないとおかしいからです。また、このえきの「この」は本文の少し前にあるにおいのある、じょうはつしやすいえきのことです。においが行列に関係していることが本文から分かるからです。【A評価】 <p>○「研究したこと」と「研究結果」はどうまとめればよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究したことははたらきありのの仕組みについてで、研究結果ははたらきありはえさを見つけると、道しるべとして、地面にとくべつなえきをつけてにおいをのこすことで行列を作る。 	<p>◇接続語や指示語を手がかりに『研究したこと』、『研究結果』がどこに書かれているか根拠を基に説明している。</p> <p>【ノート・観察】</p>
<p>まとめ (3分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 研究したこと・・・はたらきありの仕組みについて</p> <p>研究けっか・・・はたらきありはえさを見つけると、道しるべとして、地面にとくべつなえきをつけてにおいをのこすことで行列を作る。</p> </div>	
<p>振り返り (5分)</p>	<p>6. 各自で本時の学習を振り返り、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で分かったこと ・友達から学んだこと 	

6. 板書計画

	(見)	(自)	(友)	(考)	(ま)	(ふ)
<p>自力かいつグループ学習 全体学習 考さつ まとめ ふりかえり</p> <p>キーワード 「研究」 「研究結果」 「せつ続語」 「しじ語」 言語わざ 本文の根きよをもとに説明する</p>	<p style="text-align: center;">見</p> <p>せつ続語やしじ語を手がかりに第6段落〜第8段落を読み「研究したこと」、「研究けっか」がどこに書かれているか本文の根きよをもとにせつ明しよう。</p>	<p style="text-align: center;">自</p> <p>① 第6段落〜第8段落の本文を見て、せつ続語としじ語に○をする。 ② 「研究したこと」、「研究けっか」が書かれているところやその根きよとなる文に線をひいたり、矢じるしてつないだりする。 ③ 「研究したこと」、「研究けっか」をまとめる。</p> <p style="text-align: right;">まとめ方 研究したことは（ ）です。わは（ ）からす。研究けっかは（ ）です。わは（ ）からす。</p>	<p style="text-align: center;">友</p> <p>そこで、ウイルソンは、はたらきありの体の仕組みを細かに研究してみました。すると、ありは、おしりのところから、とくべつなえきを出すことが分かりました。それは、にのいのある、じよはやしやすいえきです。</p>	<p style="text-align: center;">考</p> <p>この研究から、ウイルソンは、ありの行列のえきを知ることができました。はたらきありは、えきを見つけると、道しるべとして、地面にこのえきをつけながら帰るのです。</p>	<p style="text-align: center;">ま</p> <p>研究したこと・・・はたらきありの仕組みについて</p>	<p style="text-align: center;">ふ</p> <p>研究したこと・・・はたらきありはえきを見つけると、道しるべとして、地面にとくべつなえきをつけておいをのこすことで行列を作る。</p>